

老健

ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会



CONTENTS

08 02

支援相談員のリレーコラム／北海道社会貢献賞受賞受賞者決定！

道老健大会レポート

06

ろうけん拝見！

特集

地域から求められる
存在になりたい！

老健の営業戦略

北海道老人保健施設大会開催!

多職種協働とICT技術の融合による未来型老健 ～時代を見据えた先駆的な老健を目指す～

2024年10月12日(土)、31回目となる道老健大会がホテルエミシア札幌で開催されました。60施設から約320人が参加し、さまざまなプログラムを通じ、研鑽を重ねました。

開会挨拶 星野 豊 会長

超高齢社会を支えるのは医療であり介護、社会福祉など、さまざまな形で支えていかなければなりません。そのためには、医療と介護、障がい分野における連携は欠かせません。また、老健は老健としての役割を果たすことは

もちろん、地域のハブ的な役割も果たしていただきたいと思えます。このような場で、本大会のテーマでもあるICT技術の活用は不可欠になってくるでしょう。本大会が、参加者の皆さんにとって有意義な大会になるよう願っています。



基調講演 リーダーの失敗から学ぶことは大きい

早稲田大学人間科学学術院 教授 松原 由美氏

松原由美氏は、介護事業における人材確保と定着のための組織マネジメントについて、さまざまな事例を挙げながら解説しました。講義のなかで、昨今、組織において重要とされる心理的安全性について取り上げた松原氏。「いわゆる“仲良しクラブ”とは異なる概念。仕事への考えや感情を気兼ねなく発言できる雰囲気があり、共通目的を達成するための

健全な衝突は免れない」と強調しました。さらに失敗から学ぶものは多いとし、リーダーは完璧じゃないことを自認し、積極的に他者の意見を求めるべきと言及。「失敗を恐れない組織文化を作ることが、心理的安全性を作るうえでリスクマネジメント上でも重要。リーダーが失敗する姿を示してほしい」と締めくくりました。



シンポジウム

多職種協働とICT技術の融合による未来型老健

時代を見据えた先駆的な老健を目指す



座長を務めた北翔館の大野 博之副施設長



パネリストは左から浦河緑苑の近藤 洋さん、コスモスの前田 優作さん、フェニックスのアフィファアミニさん

シンポジウムでは、ICT導入による業務効率の向上をはじめ、業務測定による職員の意識改革、外国人技能実習生本人による介護の仕事の現状と思いなど、さまざまなテーマに基づく発表が行われました。

分科会

「在宅支援・通所リハ」や「リハビリテーション」「管理・運営・多職種協働」といった40演題が発表されました。



閉会式 谷内 好 副会長



本大会は、さまざまな人の話を聞き、自身のモチベーションやキャリアアップなどにつながるきっかけにもなり得る意義深いもの。ぜひ、来年、再来年も一人でも多くの方のご参加を願っています。

懇親会

懇親会は146人が参加し、交流を楽しみました。



挨拶には千葉 泰二副会長が登場

老健の営業戦略

地域から求められる存在になりたい!

「利用者さんを集めるのが難しくなった」「見込みの利用者さんが見つからない」——。そんな声が巷でささやかれるようになった昨今ですが、老健の役割はまだまだあるはず。

地域が抱く老健のイメージに真摯に向き合い、既存のアプローチにとられない営業戦略を事例から考えます。

居宅介護支援事業所の視点

北海道介護支援専門員協会 副会長 木元 国友さん (株式会社Sun・Ju・想 代表取締役)

老健に期待しているのは、やはりリハビリです。しかしながら地域にはリハビリ施設が溢れており、特に昨今、通所リハビリにおいては特化型のデイサービスの勢いに押されている印象があります。リハビリ内容や料金もそうですが、診療情報提供書の作成やリハビリ会議の実施といった利用に際してやるべき事項が多いことも一因になっているのではないのでしょうか。ただしそれは制度上必要なことであり、質の高いリハビリの提供には不可欠ではあるため、労力に見合う成果が出ることを期待したいです。

また地域連携においては自戒を込めて言うと、いかに利用者さんの望みに応え、正確かつ迅速な対応ができるかに尽きます。老健ほどの大きなキャパシティですから、判定会議に時間を要したり、体験利用や送迎時のフォローが手薄になるといった場面に出くわすこともあります。大変さは重々承知しているため、そこでの中間報告やちょっとした一言があると信頼感が生まれ、利用者さんの安心につながるのだと思います。在宅復帰・支援施設としての老健の役割は、地域に浸透しています。ケアマネジメントの視点からも地域にもっと目を向けて、ともに高齢者の生活を支えていける存在になりたいです。

病院の視点

北海道医療ソーシャルワーカー協会 社会活動部長 石田 潔さん (医療法人社団北匠会 小樽中央病院)

老健は、介護報酬改定の度にさまざまな機能が期待されている分、その特徴が年々わかりにくくなっているように感じています。当院が位置する後志管内においては、比較的柔軟に対応していただけている一方、褥瘡など医療依存度の高い患者さんの受け入れは断られることも多くあります。そのあたり、各施設の受け入れ条件や強みなどを積極的に発信していただけると、もっと円滑に連携できると思っています。

時折、老健からパンフレットや広報誌などを送付いただくこともあり、そこで利用者さんの様子や専門職の思いなどを知ることもあります。今後は、実際に連携するうえで活用できる情報提供も期待したいですし、私たち医療ソーシャルワーカーも積極的にキャッチしにしなければならぬと感じています。

当協会では、医療と介護の連携に資する研修会なども多く開催しています。顔の見える関係を構築するためにも、もっと地域に出てきてほしいと願っています。

地域包括支援センターからの視点

北海道医療ソーシャルワーカー協会 老健専門部会 皆口 さやかさん (医療法人秀友会 札幌市手稲区第2地域包括支援センター)

包括に勤務して半年間で、老健入所の支援ケースはまだ経験できていません。一方で関わりが多いのが虐待対応です。早期発見や介護者支援、レスパイトなど、包括だけでは担えるものでは決してありません。地域包括ケアシステムの中核を担う施設である老健とも、今後も連携させていただきたいと考えています。

Check!

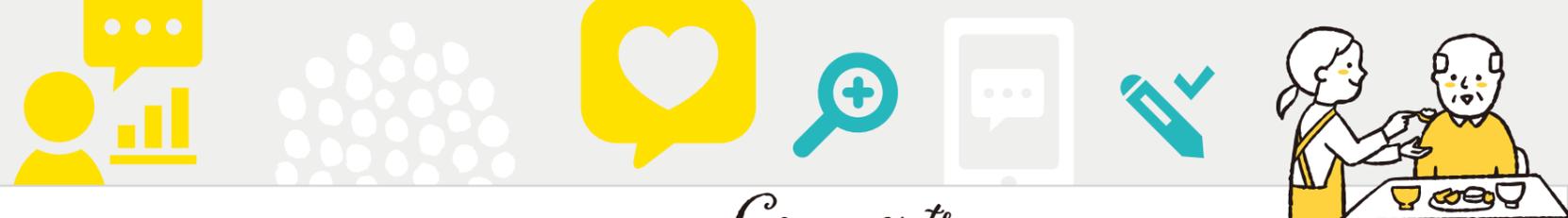
おなじみ北海道医療ソーシャルワーカー協会が主催する「ソーシャルワークセミナー」が今年も開催されます。今回は、支援相談員のみならず多職種が参加することで、より議論が深まる内容にしています。皆さまのご参加をお待ちしています!

2025年2月15日(土) 13:30~17:00

オンライン開催(参加費無料)

※申し込み〆切:2月5日

事例から考える利用者獲得術



CASE 01

地域のハブとなり 利用者ニーズに 応える！

医療法人北翔会
介護老人保健施設 まいあの里 札幌市

入所 80人 通所 77人 超強化型 単独型

営業先 急性期病院、ときどき居宅介護支援事業所
営業エリア 札幌、千歳、恵庭、苫小牧など。電話は道内全域
入所ルート 病院50%、居宅介護支援事業所50%
社会資源の状況 区内に老健が2つあるが、いずれも同施設よりも歴史が古く、地域からの認知度が高い。このほかりハビリ施設も数多い。

まいあの里流 利用者獲得術

その1 社会資源のハブとなる

営業活動は、自施設の利用者獲得のためだけではあらず。出来る限り地域の情報を集めることで、自施設が満床の場合は他施設への紹介ができるようにしている。同施設は、病院や居宅介護支援事業所を併設しないことから見込みの利用者が限られており、せつかく問い合わせがあっても紹介できるルートが少ない。そこで他施設を紹介することで、利用者も困らず、紹介先との持ちつ持たれつの協力体制も生まれやすい。いつか、利用に結び付くことを期待する考えからだという。ときには、施設紹介会社なども情報交換を行い、地域の資源を把握しておく。

その2 薬価は限界まで頑張る！

施設の方針として、基本的に薬価は5万円まで受け入れ可能としている。薬が必要だから服用しているのだから、上限を超えたから入所を断るとするのは、利用者へのニーズにできていないのも同義との考えから。経営上からも、目先の収支にこだわるよりも全体最適の視点を重視している。

空室についてのご案内

施設名	空室数	入所料	月額料
施設A	10	100,000円	150,000円
施設B	5	120,000円	180,000円
施設C	15	80,000円	120,000円

▲薬価ほか利用要件を明確にした案内を配布

その3 通所の充実が入所につながる

コロナ禍で通所利用者が激減したことをきっかけに、通所内容を再構築。「夢をかなえる通所リハビリ」をコンセプトに、利用者さんのやりたいことを第一に考え、プログラムを組み立てる内容へと刷新を図った。その結果、利用者が2.5倍に膨れ上がり、定員数も50人から77人へと拡充。地域住民、関係各所において同施設の認知度が上がっている。



成果現れず…

特別介護老人ホームに営業するも、ほぼ反応がなかった。

Comments

支援相談科 科長 岸本 裕貴さん

入所相談は、基本的に断らないスタンスです。薬価もそうですが、水虫で毎日の足浴が欠かせないなどケア面で多少負担がかかるとしても、現場と調整して受け入れられるよう整えるのが私たちの努め。そのためにも地域の情報を集めることは大事ですし、地域を知ることで当施設のあり方が見えてくると思います。このような積み重ねで、少しずつ地域の老健になれてきているように感じています。



事務長 橋本 泰希さん

「面白いと思ったことはやってみる」が当施設のテーマ。コロナ前には、町内会で毎週開催していたカラオケ大会に足しげく通って交流を深めていました。コロナで追い込まれたときも立ち止まらず、現場職員で意見交換を行って通所リハビリの刷新やYoutube配信など新しいことにチャレンジできたおかげで、過去最高の収益を確保できています。施設が地域から選ばれる時代となり、厳しい反面、これが本来のあり方だとも思っています。

CASE 02

既成概念を取り払い新たなニーズを発掘！

医療法人社団刀圭会
介護老人保健施設 アメニティ帯広 帯広市

入所 100人 通所 39人 超強化型 併設型

営業先 病院(回復期・地域包括ケア病棟)、有料老人ホーム、サ高住
営業エリア 帯広市内、近郊 **入所ルート** 病院70%、在宅30%(自宅、有料老人ホーム、サ高住)
社会資源の状況 市内には、老健はじめグループホームや有料老人ホームなど多数点在する激戦区

アメニティ帯広流 利用者獲得術

その1 有料老人ホームからの逆紹介ルートを構築

老健から見ると有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅といえば、退所先のイメージが大きい。同施設も同様だったが、あるとき有料老人ホームやサ高住に退所した利用者さんが、数カ月後に病院から再入所するケースが数件発生。食事摂取量の減少やADLの極端な低下などが入院理由になっていたため、老健としての退所のあり方を見直す必要性を認識した。そこで、当該の有料老人ホームと話し合ったところ、特に特養待機者においてはリハビリやADLを維持するための老健入所が効果的との結論にいたり、逆紹介の仕組みを構築しつつある。

その3 居宅にはショートステイ利用から推奨

ショートステイは1床のみだが、平均稼働率は3.0以上を維持。入所への足掛かりにもなっており、有効活用している。特に居宅サービスを利用する人にとっては、お試しの場としても役立っている。

その2 管内老健と協力して空床状況を案内

十勝管内にある老健の支援相談員のネットワークでは、毎月2回、居宅支援事業所や病院など約200施設に対し、空床状況を知らせるFAX営業を行っている。老健ならではのネットワークを活かした営業活動の好例。

▲十勝管内の老健の空室状況の詳細を知らせるシート

施設名	空室数	入所料	月額料
施設A	10	100,000円	150,000円
施設B	5	120,000円	180,000円
施設C	15	80,000円	120,000円

成果現れず…

回復期病棟や地域包括ケア病棟を有する病院に営業するも、なかなか紹介が増えない。十勝管内全域まわっていたこともあったが、労力に見合う成果が出なかった……。

老健とWin-Winの関係を構築

ライフシップケア帯広 株式会社ライフデザイン 事業部部長 山本正人さん

コロナが収束したころから特養に空きがではじめ、退去者が続出したと思えば、時期によっては入居相談が立て続けに満室になるなど、予測がつかないことが増えました。そんなときにアメニティ帯広さんとの連携の話が浮上。当施設としては、満室時に待機いただく間、アメニティ帯広さんを利用いただければ適切にリハビリやケアが受けられますし、退所後の当施設への入居予測も立って空室対策にもなります。もちろんご本人や家族にとっても、リハビリによって

ADLの維持・向上が期待できる利点があります。

また、原則、入所期間に限りがある老健は次の行き先に不安を覚えるご家族も多いと思われるが、当施設のように一つでも多くの連携先があるのは、安心につながるはず。課題はまだありますが、老健と有料老人ホーム間でも円滑に連携できるあり方を考えたいです。



Comments

支援相談員 千葉 綾香さん



これまで有料老人ホームとしても、利用者さんが体調不良を起こしたときなどは病院に入院することがほとんどだったようで、老健は選択肢には含まれていませんでした。新たなニーズの発見ができたので、紹介を増やしていけるように取り組みたいです。同時に法人内の関連施設とも情報共有を深め、相談しやすい関係構築を目指します。

事務部庶務課兼在宅支援部在宅支援課 課長 渋田 数馬さん

今回の有料老人ホームさんとの連携については、担当が代わってもきちんと継続していけるよう、互いの施設を行き来するメリットやルールなどを明記した協定書を作ろうと考えています。リハビリが必要になったらまた戻ってこれるという一文があると、施設はもちろん利用者さんやご家族にとっても安心材料の一つになるかもしれません。この仕組みが軌道に乗ったあかつきには、他の老健にもすすめてと思います。もっと多くの利用者さんのニーズに応えられるよう、地域で協力していきたいですね。



CASE 03

地域包括 医療病棟との 連携を模索中

医療法人歎生会 介護老人保健施設
フェニックス 旭川市

支援相談員 宮崎 拓也さん

超強化型を維持すべく、当施設が参画している地域の見守り事業で、地区社協や成年後見支援センターに向けて老健の活用をPRしてきました。何度か合同で勉強会も開催して地域での認知度は上がっているものの期待していたほどの紹介には結びつかなかったほか、紹介があっても医療依存度の高い利用者が増えて現場に負担がかかり、在宅復帰が難しい状況にありました。

そこで着目したのが、2024年度の診療報酬で新設された「地域包括医療病棟」を有する病院へのアプローチです。同病棟は、リハビリによって早期に在宅復帰を目指す病棟のため、老健も退院先になり得ると思えました。そもそも当該病院における運営がまだ軌道に乗っていないことから実績はないのですが、3カ月に1度の定期的な打ち合わせを行うこととなりました。さまざまな可能性を考え、働きかけていきたいです。



ろうけん 拝見!

社会医療法人恵和会 介護老人保健施設 アメニティ西岡

課題の可視化によって
多職種によるケアの力を強化



入所定員 100人

通所定員 35人

在宅強化型 併設型

札幌市豊平区
西岡4条4丁目1-5
TEL 011-854-5510



全職員同じ視点で認知症ケアを推進

アメニティ西岡では、昨今、チームによる認知症ケア、そして看取り支援に力を入れています。

認知症のチームアプローチ対象となるのは主に新規の利用者です。環境変化に加え、向精神薬の服用によってADLの低下や嚥下障害、せん妄や攻撃的な言動が見られるケースが多いためです。

2024年度は介護報酬改定で新設された

認知症チームケア推進加算のなかで指定された評価指標「BPSD25Q」の活用をスタート。まだ加算算定にはいたっていませんが、成果が現われはじめています。看介護師長の池元好江さんは、「客観的データで変化を確認して数値化できるため、多職種で計画的なケアに取り組んでいるほか、向精神薬の処方も減っています」と話します。

評価を経て実践する際は、「全職員が同じ視点でケアに臨むことを大事にしています」と看護主任の五井厚子さん。利用者と集中的に関わるリハビリ場面でも、評価をふまえて生活歴や趣味を考慮した活動を考案し、セラピストの視点からADLや精神面の変化を見逃さないようにしています。

利用者の願いを引き出すツールを導入

ある事例では、帰宅願望や攻撃的な言動が見られた利用者に対し、適切な評価のもとチームで関わり、屋外歩行なども通じて心身の改善を導きました。リハビリテーション科副主任の坂本美緒さんは、「どこかでケア側の思い込みもあったと反省すると同時にご本人を信じることの大切さも知りました」と振り返ります。

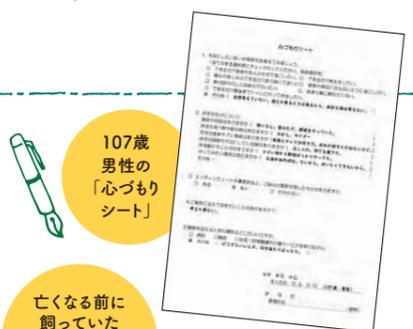
また、入所相談の段階からすでにケアははじまっています。「特に精神科からの相談や在宅生活が難しくなった認知症状のある方のケースでは、出来る限りの情報を集めて共有しています」と支援相談科科長の渡辺ひとみさんは話します。

この取り組みは、新人教育にも変化をもたらしています。介護副主任の五十嵐亮さんは、「認知症ケアは先輩に前へおえの状態でしたが、多職種に

よる関わりや評価指標の活用で指導が明確になりました」と言います。「ケアの負担も可視化でき、職員の労力軽減につながっています。成果を実感した職員が次に伝える好循環も生まれています」と事務長の吉田拓司さんも話します。

そして同様に注力する看取り支援についても、今年度から可視化の一環として新たなツールを導入。その名も「心づもりシート」と名付けたもので、「ご家族に伝えておきたいこと」や「最期を迎えたい場所」といった5つの質問をたずねる聞き取りシートです。これにより、利用者それぞれの願いの実現や利用者家族の満足感の醸成、適切な看取りケアのさらなる推進が期待されます。

「住み慣れた環境で後悔のない看取りができるよう取り組みたいですね」(池元さん)



107歳男性の「心づもりシート」

亡くなる前に飼っていた愛猫に会いたいとの願いが叶った利用者



事務連
ならから
質問です

看取りのステージ
以外の方にも、
ACP*1やALP*2に
取り組まれていますか?

「心づもりシート」の取り組みは、ACPの第一歩だと考え、余命等に関わらず入所者全員を対象に取り組んでいます。また、ターミナル期に限らず、必要な時期に「終末期医療の意思確認書」も確認するのですが、このように施設医から家族等への説明場面で「心づもりシート」を用いて本人の願いや思いを共有することが出来るようになり、より良い支援に繋がっていると感じています。

*1ACP(Advance Care Planning): 将来の医療およびケアについて、本人を主体に家族や近い人、医療・ケアチームが話し合い、本人による意思決定を支援する取り組み
*2ALP(Advance Life Planning): 「自分は何を大切にしているのか」「どのような人生を歩みたいか」について考えること

札幌市の老健施設にお邪魔しました!
在宅復帰・在宅支援、レクリエーション、ケア全般、多職種協働など、各老健が重点的に力を入れている取り組みを紹介していきます。

社会医療法人豊生会 介護老人保健施設 ひまわり

次世代を見据えた
魅力あふれる施設づくり



入所定員 90人 一般棟50人、認知症棟40人 通所定員 80人

超強化型 札幌市東区東苗穂4条1丁目1-68
単独型 TEL 011-781-8800

ハードの充実で生活リハの質も向上

2024年9月、既存建物から幹線道路を挟んだ斜向かいに移転新築を遂げたひまわり。近所とはいえ、介護度の高い利用者も含む90人を車で次々搬送するのはさぞ大変だったと想像しますが、在宅支援課課長の三浦望さんは「計画的に進めて役割分担もバッチリ。搬送は最大4時間程度と見込んでいましたが、予定よりも大分早く完了しました」と振り返ります。ベッド稼働率もできるだけ落とさないよう各所と調整を重ね、移転前後2週間だけ入退所を中止したのみで稼働を落とすことなく乗り切りました。

新築によりハード面における大きなポイントの一つとなったのが、全館Wi-Fi完備による既存の

記録システムと連動した見守りセンサーを全床に導入したことです。業務の効率化によって生まれた時間を利用者さんとの関わりに充てられるようになってきたといい、「在宅復帰から看取りまで、利用者さんの幅広いニーズに環境面からも柔軟に対応できるようにしました」と介護課長の志田真弓さん。副事務長の行方克浩さんは「まだアナログな部分もありますが、諸課題が改善されて職員の業務効率も上がっています」と成果を話します。

浴室の充実も図り、ストレッチャー浴やミスト浴を各階に導入し、好評を得ています。入所フロアは、認知症状のある利用者が安全で居心地よく過ごせる環境づくりにこだわりました。トイレ扉は目立つ

黄色でアイコンを大きく配し、段差のない床部分は色を統一するなど色彩効果を存分に発揮。壁紙や床材、物品等は、現場職員の声を随所に取り入れ、職員・利用者ともに満足できる空間に仕上げました。

家族介護教室の隣に設けた屋上広場も可能性がいっぱい。リハビリテーション課長の川添裕美さんは「工夫して確保したスペースを活用しながらフロアにおける生活リハビリにもより注力していきたい」と意欲を見せます。



屋上ひろば「てとりば」で夏季に歩行や園芸のリハビリを行う予定

癒しアイテム多数の通所リハビリ

通所リハビリについては、前述した浴室の充実をはじめ多彩なマシンやイベントも増えて連日見学者が訪れています。リラックスアイテムも各種取り入れた中、とりわけ人気を集めるのはセキセイインコのぴーちゃんです。入所フロアにいる黄色のトラちゃん同様、利用者が集まって話しかけたり、言語障がいがある人の発声のきっかけづくりにもなっています。

他方で年々、医療ニーズの高い利用者が増え、ハード・ソフト両面において受け入れ準備を

徹底しています。「医療の対応は質を落とさないよう取り組みたい。利用者さんが役割を發揮することで達成感を得られるような仕組みも考えられれば」と、通所リハビリテーション管理者の佐藤真奈美さんは力を込めます。

新たな環境でどんな取り組みが展開されるのか、同施設の今後に要注目です。



トラちゃん

ぴーちゃん



最新機器を導入した通所リハビリ

事務連
ささき
から
質問です

移転新築で最も
大切にすることを
教えてください。

新築での建設はまたないチャンスですので、スタッフの意見や要望を建物・ハード面で随所に盛り込み、職員と利用者目線で活用することをイメージしながら「皆で創り上げる新しいひまわり」を意識したことです。関係内外の調整は大変なこともありましたが、その分移転時の喜びはひとしおでした!(事務長・村瀬)

私のモットー

はじめまして。おそらくフォーシーズン真駒内3代目ソーシャルワーカーの西野健太と申します。この度は私のような只者が、このような場で執筆させて頂けることを大変恐縮に感じております。

さて、私のお話になりますが、学生時代には保育士を目指し、保育の学校へ進学。保育士資格を取得し、保育士として勤務していましたが、ひょんなことから介護の世界へ飛び込むことになりました。そして、右も左もわからないまま、いきなりフォーシーズン真駒内3代目ソーシャルワーカーに。当然ですが、上司や先輩あらゆる職種の皆さんからたくさんの愛のムチを頂くことに…。ある意味、フォーシーズンは私の学び舎でもあります。

ただ、人を支援するお仕事をさせていただく中で、保育も介護も共通して言えることに気づきました。

事務次長・支援相談員 西野 健太

介護老人保健施設フォーシーズン真駒内



それは以前勤めていた保育園の園長先生の言葉です。「子どもと関わる時には『してあげる』なんて思ってはだめ。常に『させていただく』という気持ちを持って関わりなさい」――。この言葉は今でも心に残っています。

援助者は援助する側ではあるが、それ以上に恩恵を受けるということ。今でもその思いを大切にしています。それが私のモットーです。

NEXT ▶

次の執筆者は、北海道病院附属介護老人保健施設（JCHO）の荒木耕一郎さんです。クールな容姿はさることながら、内に秘められた情熱や熱意、理路整然としている姿は、私が密かにソーシャルワーカーとして目標にしている方の一人です。

道老健 TOPICS

2024
年度

北海道社会貢献賞

（介護老人保健施設事業功労者）

受賞者
決定!



百澤 英子さん

介護老人保健施設コミュニティホーム美唄



吉野 奈美さん

介護老人保健施設コミュニティホーム白石



竹田 真弓さん

介護老人保健施設ひまわり



渡邊 真理さん

介護老人保健施設コミュニティホーム八雲



第31回北海道老人保健施設大会では、受賞者を代表して百澤さんが祝辞を述べました。

COMMENT

身に余る賞を賜りましたことに心より感謝します。介護老人保健施設の従事者として、微力ながら地域の人々の健康問題の解決に向けて、課題に取り組んでまいります。医療技術の進歩と住民ニーズの多様化、少子高齢化など、高齢者を取り巻く環境も大きく様変わりしていますが、生まれてから死にいたるまで、どのような状況になっても生きがいを持って健やかに生活できることが健康であり、最大の願いでもあります。私どもは地域の人々が健康に暮らすための側面的な援助団として、これからも本日の感激を忘れず、時代に敏感に対応し、地域の人々に信頼されるよう努力してまいります。ありがとうございました。

北海道社会貢献賞(介護老人保健施設事業功労者)とは？

この賞は、長年にわたって道内における介護老人保健施設関係事業の発展向上に貢献し、老人保健福祉行政の推進に功績が認められた人に対し、北海道知事が功績を称えるものです。老健で施設長や職員として原則20年以上活躍した方などから推薦し、北海道が選定するものです。